

コード 22-NPF-005

提出日：令和 5 年 4 月 30 日

## 令和 4 年度「平和にユナイト！パキスタンにおける青少年の 地域平和活動とアフガニスタンとの連帯」報告書

(※詳細、別紙ご参照)

団体名：一般社団法人平和村ユナイテッド 記入者名：小野山亮

### 1. プログラムの目的

2021 年、パキスタン、特に隣国アフガニスタンとの国境地帯には、極めて大きな変化があった。アフガニスタンで、すでに勢力を拡大していたタリバンが急速に拡大し、8 月には、外国軍の完全撤退を前に、ほぼ全土を支配下に置いた。パキスタン側の国境地帯でも、アフガニスタンのタリバンと強い関係を持ち、パキスタン政府と対立するパキスタン・タリバン運動 (TTP) や、タリバンとも対立する「IS」を名乗る勢力などの武装勢力の活動が活発になっている。武装勢力の士気の高まりや、外国軍撤退による「力」の空白などによるとの状況分析もある。さらなる戦闘や事件、市民の犠牲も起こるようになってきている。2022 年 3 月には、活動地ペシャワールのシーア派のモスクで、63 名の方が亡くなり、200 名近くの方が負傷する爆発事件があった。そして、爆破攻撃、襲撃などの事件が多発し、治安が極めて悪化する中、2023 年 1 月 30 日には、ペシャワールで自爆攻撃があり、101 名の方が亡くなっている。

そもそも両国国境地帯は、過去には、侵攻したソ連、また米軍など外国軍の軍事介入後には、両国政府や外国軍と戦闘を続けてきた様々な武装勢力が存在し、その思想や力の支配と影響力が強い土地となっている。そうした中、両国市民とも戦闘や厳しい治安状況の犠牲となっており、このことがまた、復讐心などから暴力的な過激主義の影響を受けやすい状況にもつながりうるという悪循環にもなっている。

青少年層はこうした過激主義の影響を受けやすく、さらには 戦闘などの「訓練」を受け（させられ）たりする状況があり、自爆攻撃の大多数が青少年によって行われているともいわれる。パキスタンのこうした青少年たちは、アフガニスタンでの戦闘にも向かっているともいわれる。

青少年にとって、平和的・非暴力的な形で、感情を表現・共有できる、自己実現を行う、他者と関わる、社会参加する場がなければ、暴力や犯罪などに関わりかねないという大きなリスクがある。そこで、青少年にこうした平和的な場を設け、また進んで、自らが平和的な社会参加の活動を行うことで、さらなる自己肯定を平和的な形で行ってもらうとともに、社会の平和につながるそうした活動自体も促進していく必要がある。

また、パキスタンとアフガニスタンの両国間で「相手国側が自国の利益のために自分たちを攻撃する武装勢力を支援している」といった相互非難も見られる。そこで、活動に関わったパキスタンの青少年たちを中心に、アフガニスタンとの交流を行い、平和のための両国間の連帯につなげる必要がある。

以上により、**暴力的な過激主義の影響を受けやすい青少年層による平和的な地域社会活動により、地域から暴力や紛争をなくしていくことを目的として活動を行っている。**

また、**現在の危機にも対応するという目的から、より両国国境地帯に近い地域での活動を取り入れる、地域の青少年たち自身が研修者研修などを受けて地域での平和活動の学び合いや平和活動を主導する、という新規の試みを行う。**

## 2. 主な活動内容・スケジュール

◎**活動場所**：パキスタンのハイバル・パシュトウンフワ州の州都ペシャワール（中心部ならびに地方部双方を含む）。ならびに同州ハイバル地区（アフガニスタンと直接国境を接する地区）。

◎**現地パートナー団体**：Sustainable Peace And Development Organization (SPADO)：

【**活動1：準備活動**】活動計画最終化、スタッフへの説明と研修、関係者への活動の導入的説明・協力要請など（4・6月）。研修マニュアル（ピースマニュアル）の作成（8月）。

【**活動2：関係者協議**】青少年グループならびに地域社会の人びとや諸関係者が参加する協議により、地域社会を構成する多様な層からの情報によって、活動の前提となる紛争に関わるセンシティブな地域状況を把握するとともに、地域社会の多様な層からの活動への理解と協力を得る。（7月）

【**活動3：指導者研修**】社会に多様に広がる過激化の場に鑑み、地域社会の多様な青少年層から、地域社会からの平和づくりを主導する青少年を、参加者として選ぶ（9-10月）。平和をつくる活動についての知識や技術を、参加型の学びの手法も交えて、実践的に、十分に身につけてもらう。（12月）

【**活動4：地域での平和と平和活動の学び合い（地域ピースワークショップ）**】研修を受けた青少年が主導し、研修内容やピースマニュアルを踏まえて、地域の人たちと平和と平和活動の学び合いを行う。身近な争いごとやその解決事例なども取り上げて議論する。（1-3月）

【**活動5：地域での平和活動（地域ピースアクション）**】研修を受けた青少年、地域ピースワークショップに参加した青少年が主導し、地域の人たちとも協議を行いながら、青少年たち自身が、地域で平和をつくると考える活動を実施する。（12-3月）

【**活動5：アフガニスタンとの交流・平和のための両国間の連帯**】当団体のアフガニスタンでの協働団体による同国活動参加者への本活動の情報共有（2・3月）、両国スタッフ間経験交流（アフガニスタンでの活動参加者も参加）（3月）、アフガニスタンでの平和活動経験交流会へのパキスタン側スタッフ参加（3月）。

## 3. 助成を受けた活動の報告

【**活動1：準備活動**】スタッフ雇用・活動最終確認、スタッフ・オリエンテーションと研修、関係者への活動の導入的説明、マニュアルの作成を実施。

【**活動2：関係者との協議**】5回実施（ハイバル2回、ペシャワール地方部3回）。活動全体につき説明。目的、手続き、協議参加者の役割と責任、効果的な調整メカニズム、活動参加青年たちの選定手続き、暴力的な過激主義に関しての青年たちの脆弱性・リスク要因や地域レベルでの解決方法、また、人権・平和・寛容・非暴力などについての説明や議論を行った。



【**活動3：指導者研修**】参加20人を選定（ペシャワールの地方部12人（男性8人・女性4人）。ハイバル8人（男性5人・女性3人）。人権・平和・寛容・多様性・非暴力、青年たちの役割と責任、暴力的過激主義に関する青年たちの脆弱性やリスク要因、この活動における調整メカニズム・文書化・記録、非暴力の紛争解決手段、地域の知見に基づいた地域レベルでの解決方法、紛争分析、地域の具体的な紛争やその解決などについて、説明・議論。



【活動4：地域での平和と平和活動の学び合い（地域ピースワークショップ）】1-3月。6か所で実施：ペシヤワールにて男性2回・ハイバルにて男性2回・女性2回。平和、人権、包括性のためのイスラム教の教えと価値、地域の具体的な紛争やその解決などについての説明・議論。



【活動5：地域での平和活動（地域ピースアクション）】以下の6つのアクションが実施された。

① 地域のスポーツを通じた平和の促進：過去には地域のゲームが地域の交流の源として利用され、地域の問題とその解決策について話し合われるなどしていたが、治安状況などから行われなくなった。こうしたことから、そこでこれらのゲームを通じて自分たちの地域に変化をもたらすことを示すために実施。



② アートを通じた平和：地域の女性たちは多くの人の前で話すのは不安なため、自分の感情を絵の形で描くことができるということから、平和に関連する絵を描くアクションを実施。また、女性たちが意思決定過程で政策立案者によって無視されていること、投票の権利や教育の権利がないことなどが話された。



③ 平和構築における宗教指導者の役割についての話し合い：地域内の平和と寛容の重要性について地域の宗教学者に動いてもらえるようにするため、マドラサで実施。参加者の皆さんが人間の行動に変化をもたらすことができる主要な人々であると述べられ、イスラムにおける平和について人びとの前で話すことについて依頼がなされた。



④ 子どもたちとのピースアート！：人びとが孤児・遺児の子どもたちと接していないので、こうした子どもたちとの何らかの平和についての話し合いを持ちたいという考えから、女性たちが実施。父親を亡くした子どもたちとその母親たちに、脆弱な治安状況、反社会的なことに関わる若者の現状、若者や子どもへの関わり不足の例などが話された。子どもたちは平和を絵で表現した。



⑤ 女性平和大使の宣誓アクション！：教育と社会に触れていることの不足から、地域の女性が子どもたちの地元の人びととの関わりを知ることが不足していることなどが説明され、子どもたちと関係を持ち、子どもたちのネガティブな活動の実施/関与を止めるよう、他の女性たちに働きかけるなど、地域での平和活動を行う「平和大使」としての宣誓が行われた。



⑥ 戸口でピースメッセージ！：草の根の人びとが平和の重要性を認識していないため、自分たちの平和のメッセージを共有したいとの考えから、地域での様々な場所への戸別訪問のうえ、平和のメッセージを広げることとなった。若者への注目、平和のメッセージを広めること、平和の重要性について話すべきであることを宗教学者に話すことなどが訴えられた。



【活動6：アフガニスタンとの交流・平和のための両国間の連帯】アフガニスタンでは、当団体のアフガニスタンでの協働団体による同国活動参加者への本活動の情報共有が行われた。また、両国スタッフ間の経験交流が、アフガニスタンでの活動参加者も参加して、行われた。平和活動を主導する地域の人たちを広げていくことについて意見が述べられた。アフガニスタンでの平和活動経験交流会にはパキスタン側スタッフが参加した。また、計画時に予定や想定をしていたものではなかったが、パキスタンでは、過去の活動に参加したアフガニスタン青年が活動運営に参加し、アフガニスタン宗教学生が上記ピースアクション③の活動に参加者として参加した。

#### 4. 活動の成果

- ・ **悪化する治安状況での活動**：悪化する現地治安状況下、活動の中心となる青少年ほか、地域の人びと、様々な分野の人たちによる積極的な活動参加があり、地域での争いや解決などについての議論、そして地域の平和のためのアクションなどが実施された。本活動の場自体が極めて貴重で、参加者や社会にとっても希望になっていることを示している。
- ・ **新規の試み**：特に今年度は、よりアフガニスタンとの国境地帯に近い地域（ハイバル）での活動を行うことができた。
- ・ **新規の試み**：さらに、地域の青少年たち自身が研修者研修などを受けて地域での平和活動の学び合いや平和活動を主導する、という新規の試みはかることができた。
- ・ **女性たち**：依然、数が少ないながらも女性たちの活動参加がある。ピースアクションは6つのうち3つが女性たちによるものだった。
- ・ **活動そのものの成果**：上記により、過激主義の影響を受けやすい青少年への平和的・非暴力的な自己表現・実現・肯定、社会参加の場の提供、地域社会全体での青少年や平和活動への理解と協力の促進、青少年の活動を通じた社会の平和につながる活動自体の促進ができた。
- ・ **波及の成果**：この活動はさらに次の平和活動を促進するものとなった。今後の自身での平和の活動について語った参加者もいる。さらに、地域社会の多様な主体に加え、特に、人びとに敬意を持たれ影響力のある、宗教学者、宗教指導者、マドラサの学生の参加があり、今後の波及が期待される。
- ・ **活動地以外の地域への波及の成果**：活動参加者は様々な地域の青年たち、地域の人たちであり、活動参加後に、自身の地域にその学びや経験を共有し、活動が広がっていくことが期待される。
- ・ **パキスタンとアフガニスタンの青少年の交流**：パキスタンで、アフガニスタン青年の活動運営参加、アフガニスタン宗教学生の活動参加があった。アフガニスタンでも、当活動の情報共有があり、両国の交流活動も実施した。活動参加者や関係者、また一定程度、こうした交流の様子に触れた他の人びとにも影響を与え、両者間の信頼醸成や平和に向けた連帯と活動につながっていくことが期待される。
- ・ **活動の持続性**：過去の活動参加の青年が運営に参加するなど、活動の持続性が担保された。

#### 5. 今後の課題

- ・ **過激化や紛争**に苦しんできた地域であり、さらに**治安状況は極めて悪化**している。平和の試みはまだ限定的であり、こうした状況に対抗するためにも、**引き続き、社会に根付き継続した取り組みを実施する必要がある**。
- ・ **女性の参加**はある程度実現できたものの、いまだ活動参加や行動への制限があり、権利享受に困難がある。

以上